

レースっていいよね
第 63 回 「弱点」 の巻

もうかれこれ、ウチに PEUGEOT 206cc がやって来てから、はや1年と8ヶ月。
総走行距離はあと数百キロで3万キロに。
この間、どこへでも行き、この場所で様々なことを感じ、共に人生を歩む、間違いなく私のパートナーである。

少しばかり過酷な使い方をしていて「ゴメンね・・・」なんて思いつつ、アクセルはできる限り開け、ブレーキはできる限り踏む。
サーキットを走る時はオニのように突っ込み、いかんなくバレリーナのように回る。
峠に差し掛かれば、必要無いのに速く走ろうとする。

特に、鈴鹿峠の上り線(滋賀⇒三重)は、もう数えることもままならないほど通るたび
「今回はゆっくり行こう」って、固く心に誓っていても、トンネルを抜けた右コーナー手前で軽快にシフトダウンして、次の左コーナーに突っ込むときには、ちゃっかりとあとに続く連続ヘアピンへのアプローチを考えていて「ゆっくり」なんて言葉は遥か銀河のかなたに飛び去っている。毎回。

アホだな。ビョーキだ。

それにしても 206cc は実は重い。
屋根の開閉アクチュエータなどを要することで、走るには厄介な重量物を積んでいるのだ。
しかし、これは宿命。
無論、その重量に替え難い快適性や充足感をこのクルマは備えている。
それに「重い」ということを上手く走れない理由にはしたくない。

フランス車というヤツの足廻りは、乗っていて本当に快適であり、また操舵系統の味付けもセンシティブで、パワステも違和感はない。
コーナリング性能そのものは、実は国産車と比較すると劣るかもしれない。
しかし、ドライバビリティを性能として汲むなら、圧倒的な優位性を誇示できる。

「運転が楽しい」これに勝る性能は無いのである。・・・と思う。

206cc の場合、(S 16仕様だけど)足廻りとタイヤのバランスも絶妙である。
が、悲しいかな標準装備のグッドイヤー・EAGLE F1 はたった1回のサーキット走行で無残にも消しゴムのように無くなり(前輪のみ)、仕方なくローテーションでごまかしてみたものの、その後、もう1回コースを走ったおかげで、今や4輪ともトレッドパターンはカット・スリックに近づきつつある。
間違いなく車検など通らない。(まだだけど)

ところが、その絶妙なドイツ製タイヤは絶版となり、すでに EAGLE F1 はモデルチェンジされている。
あくまでも旧型が欲しいのに！！ 多分新型のタイヤ性能は互角かそれ以上なんだろうけど。
生産国もドイツのままだし。

しかし、こうなったらミシュランに替えるしかないっ！
フランスと言えばミシュラン、プジョーと言えばミシュラン、WGP でもミシュラン
タイヤと言えばミシュラン。地図もミシュラン、格付けもミシュラン！
ちきしょー、ミシュランのパイロット・スポーツ履いてやる！！ 高い。
1本の価格が¥26,000とは。もっとも、定価で買おうとは夢にも思っていないけど。

でも、ココで妥協は出来ない。したくない。頑張るしかない。
きっと、その性能は値段に見合っただけに違いないっ！・・・と信じるしかない。

せめて、良いクルマを生み出した設計者の心意気に答えなければ。
しかし、タイヤがこんなに高いものとは。(選ぶから、なんだけど・・・)
これは思わぬ弱点だった。

そういえば、もう一つ弱点があった。
5速で踏んでいきたいコーナーに差し掛かると、一瞬躊躇してしまう。
もう少しロールが抑えられればちゃんと開けられるんだけど。
けどヘンに足をいじって、今の絶妙なバランスを崩したくない。
第一、クルマに手を入れなければならないほど、まだドライビングは洗練されてない。
いじるのはそれからだ。

がんばるぞお！
・・・っていうか、最初から公道飛ばすなよ、ってハナシなんだけど。

(03Nov2003)



[GO to TOP PAGE](#)